

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう！

# 9.16 三里塚に2万人が結集！

## 日刊 動労千葉

79.9.23  
No. 31

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
電話 二三八〇九（公衆電話）227207

### 三里塚空港二期工事粉砕・ジェット燃料増送阻止を 10.21反戦闘争の中軸に闘おう！

全国の動労組合員のみならず、三里塚現地で開催された「三里塚空港廃港、二期工事阻止、9・16全国総決起集会」は全国の闘う労働者・人民の総決起による二万人の結集をもって圧倒的に成功しました。動労千葉は全支部から二〇〇名が参加しました。労農連帯の旗を守り二期工事粉砕、ジェット燃料増送阻止の決意をこめて関川委員長は堂々と闘う決意を表明し、全参加者からの圧倒的な共感の拍手をもって迎えられました。



#### 変らない政府・空港公団の本質

この9・16三里塚現地集会の圧倒的成功の最大の意義は、激動の八〇年代を闘う労働者・人民の結集軸として三里塚・芝山連合空港反対同盟の闘いが絶対的な意味をもっているということが、全国の戦闘的労働者・人民の共通の認識として、あらためて確立されたということです。

第一期工事の際、自宅の庭で脱殻作業中の故大木よねさんを機動隊の暴力をもって排除してしまった国家権力の姿は、そのまま第二期工事を強行しようとする現在の政府・空港公団の本質であり、同時にこの権力の本質は「国鉄三五万人体制」攻撃はもろろん、全ての労働者人民に向けられているのです。

支配の側からの高度経済成長政策に路線的に屈服し、総体としてマル生攻撃と本質的に対決し得なかった日本労働運動は、公害や農地、漁場をとり上げられて呻吟する市民、住民、農・漁民の苦しみを切り捨て、高成長のオコボレの質上げのみを追求してきたが故に、今日の春闘五連敗という状況を招来したのです。

#### 動労千葉の路線的正義性

動労千葉は、この間、三里塚・ジェット闘争を闘うに当り、以上のような視点とジェット燃料輸送に当って直接的に問題となる反合闘争、運転保安闘争としての視点、さらには闘いが本質的であればあるほど権力からの弾圧が強まるということも含め、闘う主体としての自らの組織的強化と広範かつ重層的支援・連帯の獲得を目指した「四つの視点と二つの戦略」を確立し、この路線のもとに闘い抜いてきました。

この闘いの正義性はいまや動労内外の多くの戦闘的労働者・人民の共通の認識となっています。この闘いの高揚と路線的正義性に全くセクト的

立場から屁理屈をつけて敵対してきたのが「本部」反動・暴力分子であったことも、いまさら言うまでもないことです。

#### 全労働者・人民の真の共闘を確立しよう！

当面する「三五万人体制」合理化にしても、単に動労、国労だけでなく、全労働者、全人民の共感に基づく全人民の共闘を構築しなければ、資本の側が全体重をかけてやってくる攻撃をはねかえすことなどできるはずありません。

組織労働者であるわれわれがいまできることは、高成長下のひずみの中で切り捨てられることを拒否して闘っている三里塚をはじめとする農・漁民、市民、住民や中小、下請けの現場で血と汗をふりしぼるような闘いを続けている労働者と、真の支援・連帯をもって闘い抜くことです。

動労千葉の三里塚・ジェット闘争に対する共感、このような路線的正義性とその実践に対して寄せられているのです。自分の都合のよいときだけ「支援」を押しつける労働運動であってはなりません。

日本労働運動の右傾化は職場・生産点においては、真に苦しい立場に追い込まれている労働者の切り捨てとなって現われてきます。

「闘う動労」の戦闘的再生は急務です。いまこそ反動分子の暴力支配を排し「安定宣言」「水本謀略」路線を廃棄すべきときです。

全国の動力車職場から、確実に動労千葉の三里塚・ジェット闘争への理解と共感の動きが開始されています。

全国の動労組合員の皆さん！  
闘う全ての労働者・人民と連帯し、「三里塚・ジェット闘争貫徹」労働連帯の大義を守り、「三五万人体制」を許さない闘いに共に決起しようではありませんか。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！